

作溝式播種機を用いた 春期牧草追播における入牧時草丈等が牧草定着に及ぼす影響

【1 成果の概要】

- (1) 春期における牧草追播処理では、播種時においては前植生を極力低刈(草丈 7cm 程度)することにより、38%の牧草出現率を得られます。(表 1)
- (2) 放牧地において牧草追播処理を行う場合、前植生の草丈が 36cm 以内で入牧することで、その後の 80%以上の牧草定着率を維持できます。(表 2)

表1 牧草追播時における前植生の掃除刈りの有無が追播牧草出現率¹に与える影響

	播種時	播種20日後	
	前植生平均草丈(cm)	前植生草丈(cm)	牧草出現率(%)
掃除刈りなし	18.0	44.8	3
掃除刈りあり	7.3	21.8	38

1 コドラート法(方形枠法)を用いて行い1m×1mの方形枠を10cm四方、100分画した中で追播牧草の出現した分画の数から算出した。(定点調査:n=各3)

表2 追播牧草の出現率の推移

入牧時草丈	牧草出現率(%)	
	初回入牧時	3回目入牧時
低(27cm)	38 (100.0)	39 (102.6)
中(36cm)	44 (100.0)	36 (81.8)
高(46cm)	17 (100.0)	4 (23.5)

()内は播種後、初回入牧時の追播牧草出現率を100とした場合の相対出現率をあらわす。



写真1 作溝式播種機



写真2 施工後の状況

【2 留意事項】

- (1) 作溝式播種機はエイチゾン社製グラスファーマー(写真1)を使用し、オーチャードグラス(品種:バッカス、播種量:2.5kg/10a、作溝幅14cm)を播種したものです。また前植生は、オーチャードグラスを主体としています。